



排 石 子 之 石
 増 上 之 石
 有 之 石
 己 之 石
 此 之 石
 左 之 石
 右 之 石
 上 之 石
 下 之 石
 中 之 石
 外 之 石
 内 之 石
 前 之 石
 后 之 石
 左 之 石
 右 之 石
 上 之 石
 下 之 石
 中 之 石
 外 之 石
 内 之 石
 前 之 石
 后 之 石

... 正徳 ...

... 孫素子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

... 子 ...

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

つらねて

未成子母の言に
ふりてわが子に
はなれしはむね
ふりてわが子に
ふりてわが子に
ふりてわが子に
ふりてわが子に
ふりてわが子に
ふりてわが子に
ふりてわが子に
ふりてわが子に

年

お存候

と

上の方を
お尋ね

来^ル十月十四日十五日靈山薦事ニ付祭
文及^ヒ歌詩^ヲ和漢雅俗
ナ問ハス徧ク遠近ニ請求
シ本日之ヲ社前ニ献^シ以テ英魂^ヲ慰
ント欲^ス冀^ク四方ノ君子投寄有^シテ

明治九年九月 京都 養正社 祭祀掛

京都靈山靈明社祠堂

歌詩集所 村上都平

同 五手町夷川^上處 養正社會所



養正社廣告

安政戊午以來慶應丁卯ニ至ルマテ報國盡忠ノ士國是ノ定マラサルヲ慨歎シ父母妻子ニ別レ俸祿資産ヲ抛テ四方ニ奔走シ或ハ縲絏其身ヲ繫キ鼎鑊其肉ヲ爛シ或ハ骨ヲ原野ニ暴ラシ遊魂故土ニ歸ラサル者幾百人ナルヲ知ラス其厲操苦節想フヘシ今ニ至ルマテソノ事ヲ聞クモノ婦人小子トイヘ氏尚潜然涙下ル况ヤ骨肉親戚ニ於テヲヤ又况ヤ其志ヲ同フシ其事ヲ共ニスル者ニ於テヲヤ方今 王政維新ノ世ニ遭ヒ隆治ノ澤ニ浴スル者ハ固ヨリ 聖代鴻猷ノ致ス所トイヘ氏各士國ニ報シ忠ヲ盡スノカモ亦少シトセス其功豈泯滅スヘケンヤ頃者吾儕同志ヲ募リ新タニ養正社ヲ結ビ永世祭祀ノ方法ヲ立テントス因テ十月某日ヲ以テ洛東靈山ニ於テ招魂祭ヲ修シ遺墨遺物ヲ聚メ其靈ヲ吊慰シ又各士ノ佚事ヲ搜抉纂輯シ其名ヲシテ千載朽サラシメントス是吾社ノ本旨ニシテ廣ク四方ニ告ル所以ナリ其薦事社則ノ如キハ別單ニ具備ス

京都

明治九年八月

養正社



養正社述言

一此社ヲ結ヒシ本旨ハ戊午ヨリ丁卯ノ冬ニ至ルマテ國事ニ死ビセシ人ノ姓名事蹟ヲ發顯シ永世之ヲ祭祀シ且ツ一大碑石ヲ建テ其忠義ノ功ヲ表シテ千歲湮滅セサラシメントス然レトモ天下ノ廣キ其人ノ多キ一舉ニ網羅シ難シ故ニ當府ノ所轄地ニ居住セシ者及ヒ他所ヨリ嘗テ此地ニ客居シ或ハ此地ヨリ他ニ出テ死シタル人等ノ遺聞逸事ヲ徧ク搜索セント欲ス四方ノ君子見聞スル所アラハ事ノ大小ヲ論セス詳ニ報知セントヲ請フ

一此社ニ入ル人ハ貴賤貧富ニ拘ラス或ハ財物ヲ以テシ或ハ心カヲ以テ補助周旋シ共ニ祭事ヲ盛ニセントヲ請フ

一此社集會所ハ上京第三十一區土手町夷川上ル所ニ設ケ取締方或ハ書記方出張シテ四方ヨリ來ル所ノ遺聞逸事ノ報知ヲ待ツ

一此社出納掛ハ上京三十一區河原町二條下ル勸業場内博覽會社詰所ニ出張シテ有志者ヨリ贈ル所ノ祭資等ヲ收入ス

一此社ニ寄セラル書類及祭資金等遠方ノ向ハ祭期ニ後ルモノアルヘシ假令後ルト雖モ收入シ書類ハ編輯ノ参考ニ備ヘ贈金ハ後年ノ祭資ニ充ツ

一此社ノ旨趣ヲ領會シ入社スル人ハ其姓名ヲ帳簿ニ記載シ同心協力ノ意ヲ表ス

京都

明治九年八月

養正社

